

福岡都市圏における公共交通機関に関する調査 (参考資料)

生活交通のあり方について

- | | | |
|-------------------------|----|----|
| <1> 全国の子ス交通の状況 | …… | 参1 |
| <2> 子ス路線の休廃止申し出への対応状況 | …… | 参2 |
| <3> 橋本駅循環ミニバスの運行ルートについて | …… | 参7 |
| <4> 広報チラシ | …… | 参8 |

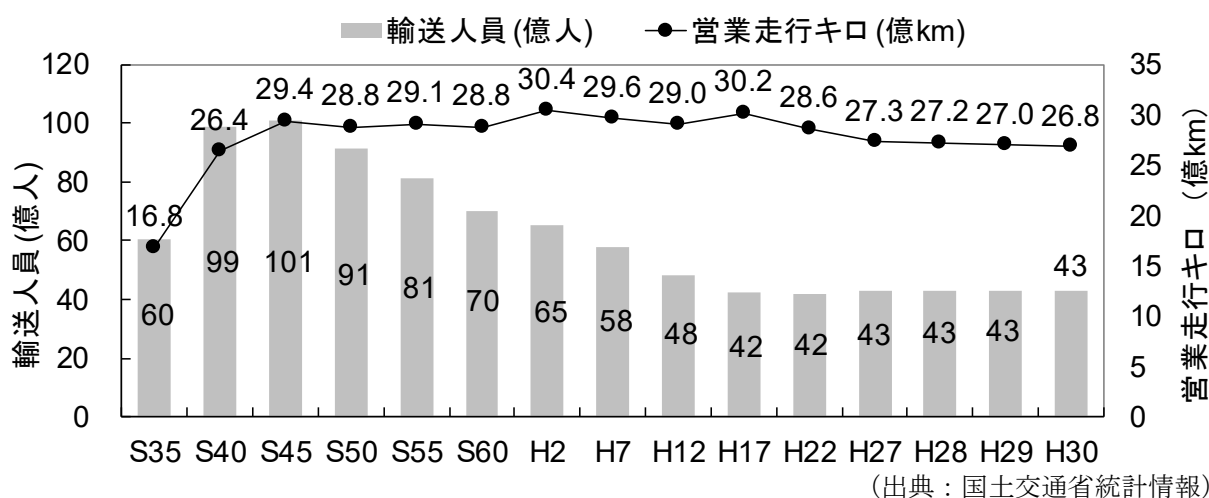
< 1 > 全国のバス交通の状況

全国のバス利用者数は、モータリゼーションの進展等により、昭和40年代をピークとして減少を続け、現在はピーク時の約4割という状況であり、バス事業者の約7割が赤字を計上している。

平成14年に道路運送法が改正され、バス事業の規制緩和が進み、新規参入が容易となった一方で、路線の休廃止が許可制から事前届出制となり、不採算路線の休廃止手続きが容易となった。

また、近年、運転手不足も深刻になってきており、全国的にもバス路線の休廃止対策や生活交通の維持・確保が課題となっている。

(1) 全国の乗合バスによる輸送人員



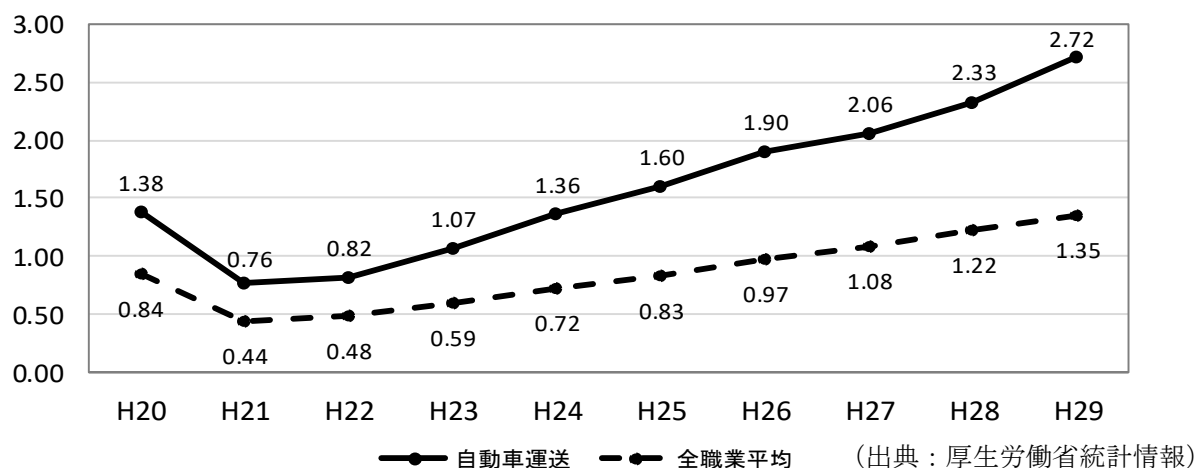
(2) 全国の乗合バス事業者の収支状況 (平成30年度)

	バス事業全体の損益 (億円)			事業者数		
	収入	支出	損益	黒字	赤字	計
民営	5,914	6,198	△284	68	155	223
公営	1,442	1,539	△97	1	16	17
計	7,356	7,737	△381	69	171	240

※ 保有車両30両以上の事業者を対象とし、高速バス及び定期観光バスを除く。

(出典：国土交通省発表資料)

(3) 有効求人倍率の推移



< 2 > バス路線の休廃止申し出への対応状況

① 今宿姪浜線 【代替交通の確保】

(1) 経緯

- ・平成17年10月に昭和自動車(株)が西区を走る6路線の休廃止申し出(休廃止予定日:平成18年11月1日)。休廃止された場合、西区今宿上ノ原等で新たに公共交通空白地が生じる。
 ※今宿姪浜線乗合マイクロバス連絡協議会:平成19年9月28日設置
- ・複数の廃止路線を統合した形の路線にて、平成18年11月から1年間の社会実験を行い、平成19年11月から代替交通の本格運行開始。
- ・平日及び土曜日の運行経費を補助対象とし、経費と収入の差額を市が支援。
- ・平成26年4月から日曜祝日の運行経費についても補助対象とした。
- ・平成28年4月から補助限度額を廃止し、経費と収入の差額を市が支援。

(2) 地域の状況 ※数値は平成27年国勢調査。()は平成17年国勢調査。

	今宿上ノ原	大谷バス停周辺	計
人口	1,029(1,125)人	約330(約230)人	1,359(1,355)人
高齢化率	45.2(32.6)%	—	—

<路線図>



<運行内容>

休廃止申し出時	現在
運行事業者 昭和自動車(株)	運行事業者 (株) 姪浜タクシー
路線 今宿野外活動センター～今宿 今宿野外活動センター～今宿～野北 姪浜～今宿～前原	路線 今宿野外活動センター～今宿駅前 ～姪浜駅北口(約10km)
車両 中型バス	車両・乗務員 小型ノンステップバス1台・乗務員2人
運行時間帯 始発 7:40(今宿野外活動センター発) 最終 18:12(今宿発)	運行時間帯 始発 7:10(今宿野外活動センター発) 最終 18:51(姪浜駅北口発)
運行本数・利用者数 平日 11.5往復・47人/日 土曜日 11.0往復・46人/日 日祝日 11.0往復・35人/日	運行本数・利用者数(30年度) 平日 10.0往復・86人/日 土曜日 8.0往復・63人/日 日祝日 8.0往復・60人/日
収支率 55%(国庫補助別)	収支率(30年度) 45%

(平成30年度実績) 経費: 14,673千円
 収入: 6,618千円
 (差額: 8,055千円)
 補助額: 8,055千円
 (うち県費補助 666千円)

※千円未満は四捨五入処理を行っている

② 板屋脇山線 【代替交通の確保】

(1) 経緯

- 平成 19 年 3 月に西日本鉄道(株)が那珂川支線の廃止申し出
(休廃止予定日：平成 20 年 4 月 1 日)。廃止された場合、早良区板屋で新たに公共交通空白地が生じる。
※ 板屋脇山線乗合タクシー連絡協議会：平成 20 年 1 月 23 日設置
- 地域との協議の結果、那珂川町方面への路線から脇山方面への路線に変更。
また、需要や道路状況から、乗合タクシーによる運行に変更。
- 平成 20 年 4 月に代替交通運行開始、平成 20 年 8 月に事前予約制を導入。経費と収入の差額を市が支援。
- 令和元年 6 月に脇山方面と那珂川方面の 2 系統に運行内容見直し。

(2) 地域の状況 ※数値は平成 27 年国勢調査。()は平成 17 年国勢調査。

	板屋	※ 福祉施設の入所者を除く場合 人口:20(30)人, 高齢化率:約 65(約 80)%
人口	76(86)人	
高齢化率	17.1(27.9)%	

<路線図>



<運行内容>

休廃止申し出時		現在	
運行事業者	西日本鉄道(株)	運行事業者	飯倉タクシー(株)
路線	板屋 ～ 那珂川営業所(那珂川町)	路線	板屋ふるさと館前 ～ 脇山小学校前(約 12km) 板屋ふるさと館前 ～ 中ノ島公園(約 13km)
車両	中型バス	車両・乗務員	乗合タクシー1台・乗務員1人
運行時間帯	始発 7:24(板屋発) 最終 15:28(那珂川営業所発)	運行時間帯	始発 9:20(板屋ふるさと館前発) 最終 16:40(脇山小学校前発)
運行本数・利用者数	全日 4.0 往復・2.3 人/日	運行本数・利用者数(30年度)	全日 2.0 往復(事前予約制)・32 人/年 (29年度 54 人/年)
収支率	— (市委託路線)	収支率(30年度)	10%

(平成 30 年度実績) 経費: 155 千円
収入: 15 千円
(差額: 140 千円)
補助額: 140 千円

※千円未満は四捨五入処理を行っている

③ 志賀島島内線 【代替交通の確保】

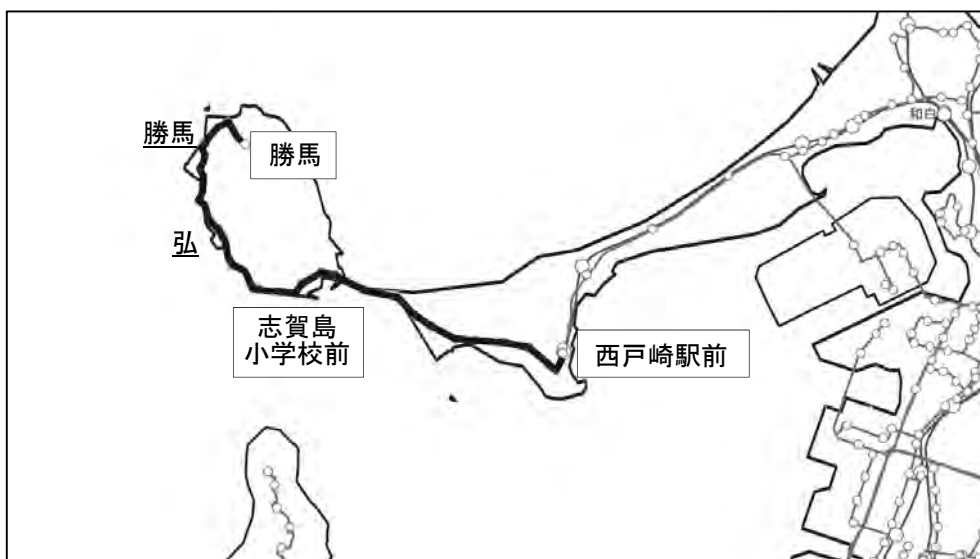
(1) 経緯

- ・平成19年10月に西日本鉄道(株)が志賀島島内線の廃止申し出(休廃止予定日：平成20年11月1日)。廃止された場合、東区勝馬、弘地区で新たに公共交通空白地が生じる。
 ※ 志賀島地域バス連絡協議会：平成20年4月30日設置
- ・地域は、西戸崎までの運行や西鉄による運行継続を要望したことから、平成20年11月に西鉄グループ西鉄バス宗像(株)による代替交通運行開始。経費と収入の差額を市が支援。(平成29年度から西鉄(株)が運行)
- ・平成27年3月に大岳止(2便)をJR西戸崎駅まで延伸し、駅構内へ全便乗り入れ。

(2) 地域の状況 ※数値は平成27年国勢調査。()は平成17年国勢調査。

	勝馬	弘	合計
人口	237(274)人	289(411)人	526(685)人
高齢化率	35.0(26.3)%	40.1(28.5)%	37.8(27.6)%

<路線図>



<運行内容>

休廃止申し出時	現在
運行事業者 西日本鉄道(株)	運行事業者 西日本鉄道(株)
路線 勝馬～海浜公園西口	路線 勝馬～志賀島小学校前・西戸崎駅前(約11km)
車両・乗務員 中型バス2台・乗務員2人	車両・乗務員 平日 中型バス1台・乗務員2人 土曜日・日祝日 中型バス1台・乗務員1人
運行時間帯 始発 6:04(勝馬発) 最終 21:01(西戸崎駅発)	運行時間帯 始発 5:46(勝馬発※志賀島小学校前止め) 最終 22:16(西戸崎駅発※志賀島小学校前止め)
運行本数・利用者数 平日 14.5往復・134人/日 土曜日 13.5往復・108人/日 日祝日 13.0往復・68人/日	運行本数・利用者数(30年度) 平日 10.5往復・147人/日 土曜日 7.0往復・82人/日 日祝日 7.0往復・75人/日
収支率 28%	収支率(30年度) 35%

(平成30年度実績) 経費：21,237千円
 収入：7,347千円
 (差額：13,890千円)
 補助額：13,890千円
 (うち県費補助1,341千円)

※千円未満は四捨五入処理を行っている

④ 脇山支線 【代替交通の確保】

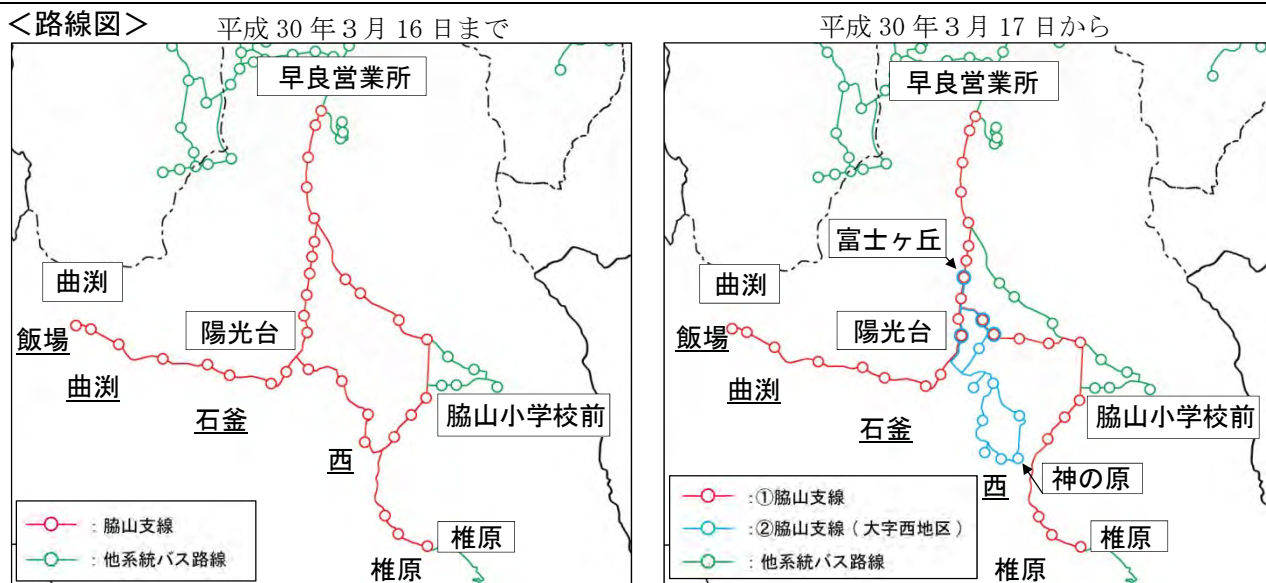
(1) 経緯

- 平成 21 年 3 月に西日本鉄道(株)が脇山支線の廃止申し出
(休廃止予定日:平成 22 年 4 月 1 日)。廃止された場合、早良区飯場、曲渕、石釜、西、椎原で新たに公共交通空白地が生じる。
※ 早良区南部地域バス連絡協議会：平成 21 年 7 月 28 日設置
- 地域は、早良営業所までの運行や西鉄による運行継続を要望したことから、平成 22 年 4 月に西鉄による代替交通運行開始。経費と収入の差額を市が支援。
- 平成 30 年 3 月に運行内容見直し(バスルート切替え, 予約型乗合タクシー導入(大字西地区))

(2) 地域の状況 ※数値は平成 27 年国勢調査。()は平成 17 年国勢調査。

	飯場	曲渕	石釜	西	椎原	合計
人口	59(87)人	98(104)人	642(750)人	591(759)人	209(279)人	1,599(1,979)人
高齢化率	61.0(33.3)%	36.7(33.7)%	41.9(29.7)%	36.2(25.0)%	44.0(31.2)%	40.5(28.5)%

<路線図>



<運行内容>

休廃止申し出時	現在	
運行事業者 西日本鉄道(株)	運行事業者 ①西日本鉄道(株)	②飯倉タクシー(株)
路線 曲渕～陽光台～早良営業所 椎原～脇山小学校前 ～早良営業所 椎原～脇山小学校前 ～ 陽光台 ～ 早良営業所	路線 曲渕～陽光台～早良営業所 椎原～脇山小学校前 ～早良営業所 (約 13km)※重複区間を除く	路線(区域) 西地区～内野地区 (約 3km) 神の原～富士ヶ丘
車両・乗務員 平日 中型バス 2 台・乗務員 3 人 土日祝 中型バス 2 台・乗務員 2 人	車両・乗務員 平日 中型バス 2 台・乗務員 2 人 土日祝 中型バス 1 台・乗務員 1 人	車両・乗務員 乗合タクシー 1 台 乗務員 1 人
運行時間帯 始発 5:54 (曲渕発) 最終 21:38 (早良営業所発)	運行時間帯 始発 6:15 (椎原発) 最終 19:50 (早良営業所発)	運行時間帯 始発 7:00 (西地区発) 最終 17:00 (内野地区発)
運行本数・利用者数 平日 22.0 往復・214 人/日 土曜日 21.0 往復・125 人/日 日祝日 19.5 往復・145 人/日	運行本数・利用者数(30 年度) 平日 16.5 往復・200 人/日 土曜日 11.0 往復・96 人/日 日祝日 11.0 往復・77 人/日	運行本数・利用者数(30 年度) 全日 4.0 往復(事前予約制) 553 人/年
収支率 21%	収支率(30 年度) 24%	収支率(30 年度) 17%
	経費: 30,730 千円 収入: 7,508 千円 (差額: 23,222 千円) 補助額: 23,222 千円 (うち県費補助 2,493 千円)	経費: 767 千円 収入: 128 千円 (差額: 639 千円) 補助額: 639 千円 (うち県費補助 254 千円)

※千円未満は四捨五入処理を行っている

⑤ 金武橋本線 【代替交通の確保】

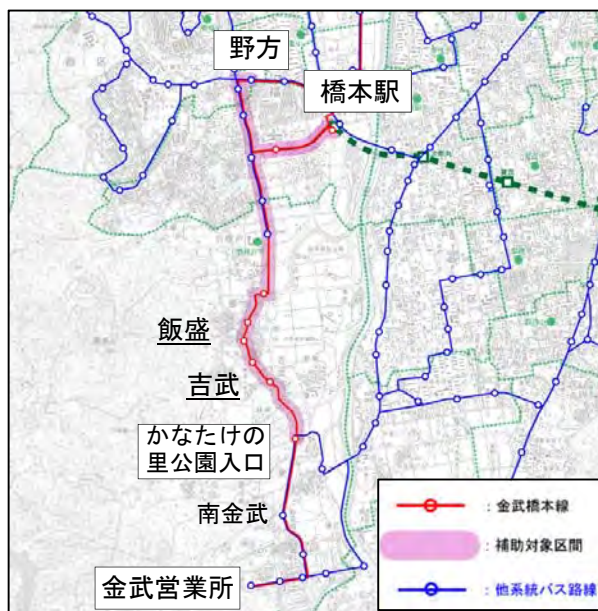
(1) 経緯

- ・平成22年3月に西日本鉄道(株)が金武線・橋本線の廃止申し出(休廃止予定日:平成23年4月1日)。廃止された場合、西区飯盛、吉武で新たに公共交通空白地が生じる。
 ※ 金武・橋本地域バス連絡協議会:平成22年9月6日設置
- ・地域は、西鉄による運行継続を要望したことから、平成23年4月に西鉄による代替交通運行開始。経費と収入の差額を市が支援。
- ・平成30年3月に橋本駅へ全便乗り入れ。(改正前乗入数(往復):平日 5.5,土曜 4.0,日祝 4.0)

(2) 地域の状況 ※ 数値は平成27年国勢調査。()は平成17年国勢調査。

	飯盛	吉武	合計
人口	463(551)人	842(716)人	1,305(1,267)人
高齢化率	40.0(31.0)%	33.8(34.1)%	36.0(32.8)%

<路線図>



<運行内容>

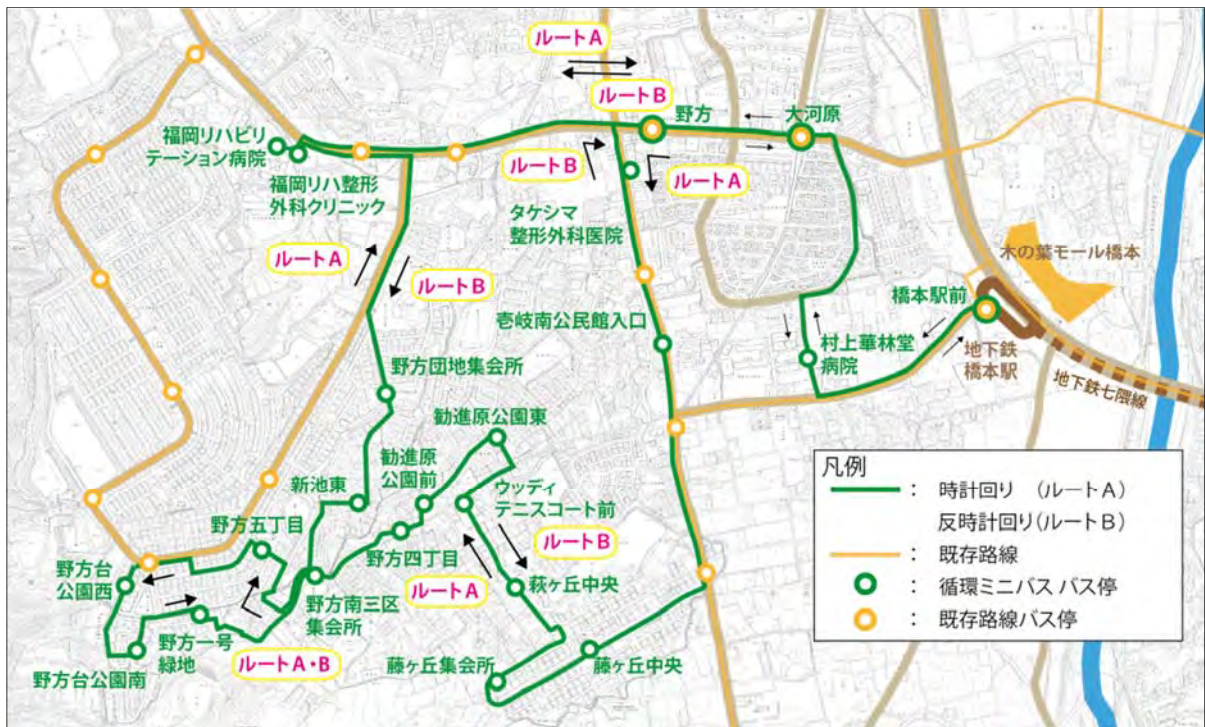
休廃止申し出時		現在	
運行事業者	西日本鉄道(株)	運行事業者	西日本鉄道(株)
路線	(橋本線) 金武営業所 ~ 橋本駅・野方 ~ 姪浜駅南口・国立医療センター (金武線) 四箇田団地 ~ 天神	路線	※補助区間は【 】内のみ 金武営業所 ~ 【かなたけの里公園 ~ 橋本駅・野方】 ~ 姪浜駅南口・国立医療センター 【補助区間:約5km】
車両	大型バス	車両	大型バス ※他路線と併用
運行時間帯	(橋本線) 始発 6:15 (金武営業所発) 最終 19:56 (国立医療センター発) (金武線) 始発 7:30 (四箇田団地発) 最終 20:23 (天神発)	運行時間帯	始発 6:17 (金武営業所発) 最終 19:49 (国立医療センター発)
運行本数・利用者数	(橋本線) 平日 7.5往復・102人/日 土曜日 5.5往復・83人/日 日祝日 5.5往復・44人/日 (金武線) 平日 4.0往復・33人/日 土曜日 3.0往復・28人/日 日祝日 3.0往復・15人/日	運行本数・利用者数(30年度)	平日 8.0往復・131人/日 土曜日 5.5往復・69人/日 日祝日 5.5往復・48人/日
収支率	21%	収支率(30年度)	46%

(平成30年度実績) 経費: 8,887千円
 収入: 4,044千円
 (差額: 4,843千円)
 補助額: 4,843千円

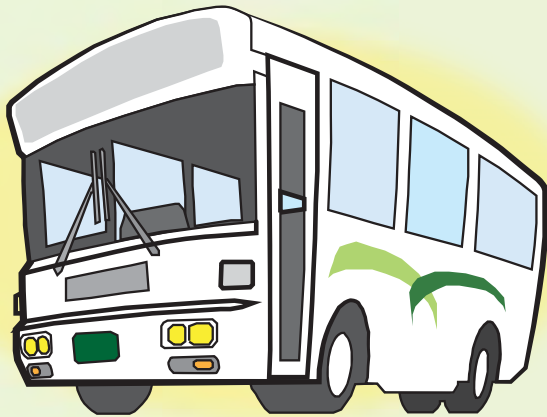
※千円未満は四捨五入処理を行っている

< 3 > 橋本駅循環ミニバスの運行ルートについて
 (平成29年12月1日~)

1. 運行ルート



地域に必要な 公共交通手段の確保へ



～ 生活交通支援事業 ～

地域みなさんが主体となって、交通事業者や行政と協力し、地域が必要とする生活交通をつくることができます。

みなさんの力を合わせた生活交通づくり



取組み事例：柏原三丁目地区



公共交通不便地であった南区柏原三丁目地区では、生活交通の確保に向け、本制度を活用した地域主体の取組みが行われました。地域、交通事業者、福岡市が協力して取り組んだ結果、平成27年4月より地区内へのバスの本格運行が実現しました。

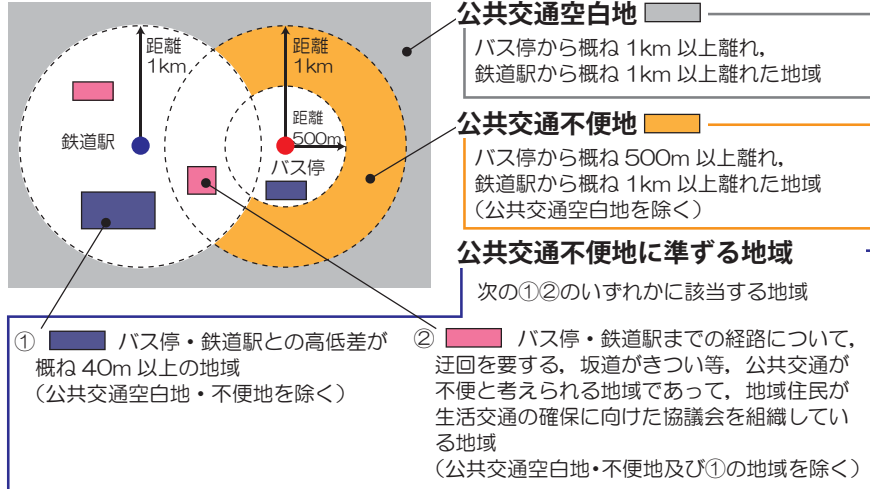
福岡市住宅都市局交通計画課

〒810-8620 福岡市中央区天神一丁目8番1号
電話 (092)-711-4393 FAX (092)-733-5590

新たな公共交通に向けての取り組み

支援の対象地域

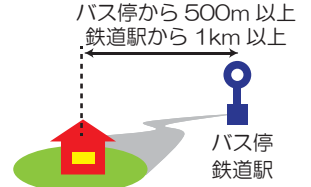
バス停や鉄道駅まで遠い、また坂道が急で不便な地域などを支援します。下に示す3つの地域が対象となる範囲です。



公共交通空白地



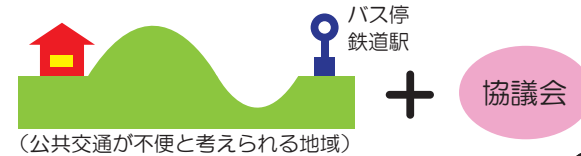
公共交通不便地



公共交通不便地に準ずる地域①



公共交通不便地に準ずる地域②



生活交通をつくりあげるまでのながれ

1. 体制づくり

地域で話し合うことから始めます

- ・住民同士の合意形成
- ・協議会の立ち上げ

2. 調査・検討

運行計画をつくります

- ・地域のこまやかな把握
- ・アンケート調査など
- ・交通事業者の選定
- ・バス停位置、運賃 など

3. 試行運行

運行内容の確認をします

- ・利用実態や採算性などの確認
- ・運行内容の見直し

4. 本格運行

積極的に利用して、みなさんで支えます

- ・利用促進の取り組み
- ・定期的な検証、見直し

地域

交通事業者

福岡市



地域住民と協力関係の構築を行います

- ・地域ニーズに合った運行内容の提案

試行運行を実施し事業の評価を行います

- ・採算性の検証

安定した経営を目指します

- ・安全な運行
- ・低コストへの工夫

協議会の立ち上げ等のお手伝い

検討経費の補助
補助金額：年間50万円を限度
補助期間：3年（最長5年）

試行運行経費の補助
・収支差額の補助
・経費の1/2と300万円のいずれか少ない額を限度
補助期間：6ヶ月（最長1年）

加えて... 協議調整や専門的なアドバイスを行います

協議会運営の継続的なお手伝い

支援の基本的な考え

●地域が中心となった取り組み

本支援事業は地域が主体的に取り組むことを前提としています。より使いやすいダイヤ、運行ルートを作り、みなさんが積極的に利用し、継続的な運行とするためには、地域の主体的な活動が不可欠だからです。

●自立した経営

本格運行後は地域と事業者が利用促進や定期的な検証・見直しに取り組みながら、自主的な運行を行います。本格運行に対して福岡市の財政支援はありません。

●地域、事業者、福岡市が協力し合う

地域と事業者、福岡市が一緒になって地域に根ざした生活交通の確保に努めます。地域は協議会の立ち上げ、ニーズの把握などの合意形成、利用促進に取り組み、交通事業者は安全な運行を第一とし、低コストへの工夫などに取り組みます。福岡市は各段階における協議・調整や専門的なアドバイスを行うとともに、検討経費及び試行運行経費の補助を行います。